

Let's Know Hiroshima Castle.

しろうや！ 広島城



No.75

黒船来たる！さあ大変だ、日本は大さわぎ！？

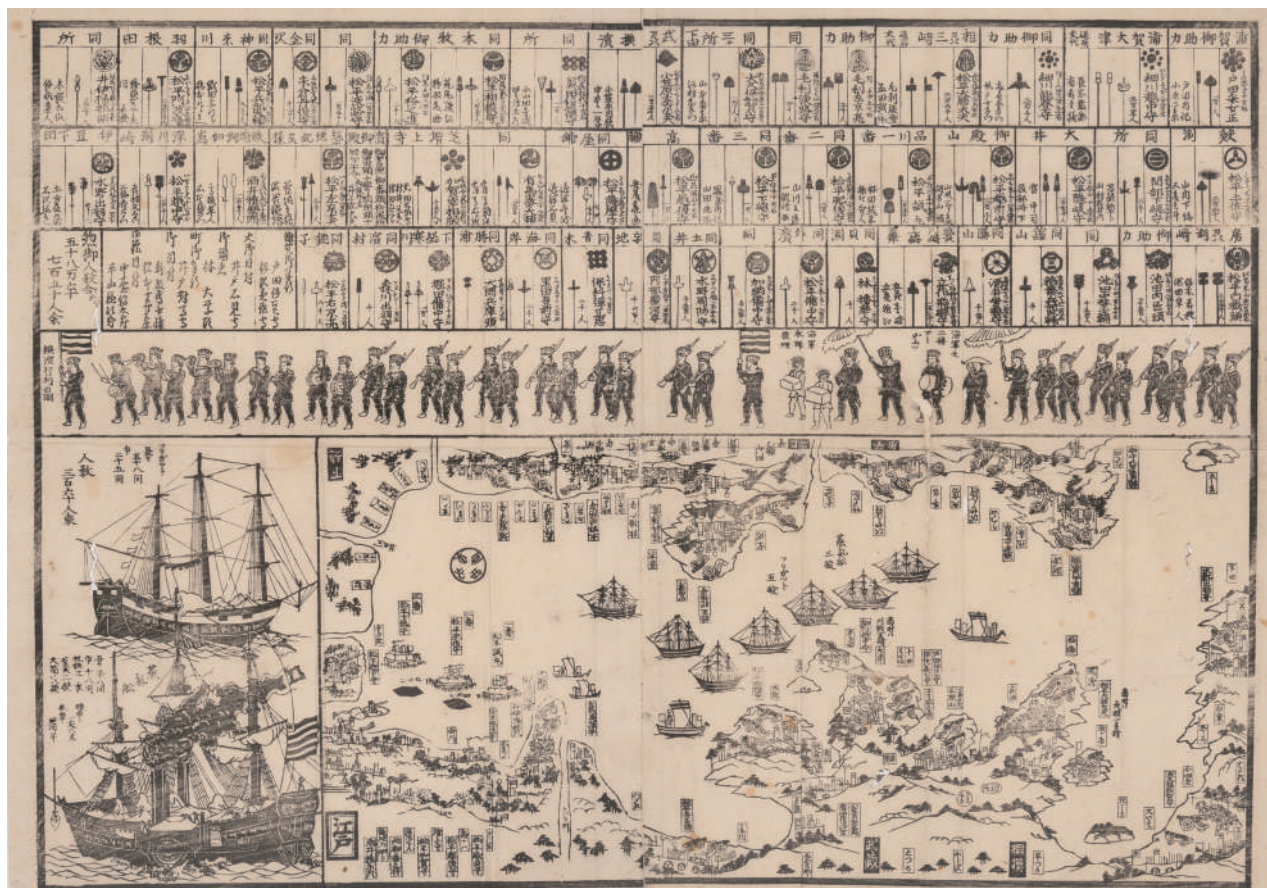


写真1 「異国船渡来江戸御国之畧圖」 広島城蔵

この1枚の刷物、黒船来航で江戸の町を守るため、江戸湾一帯を囲むように多くの軍隊が配備されています。厳戒態勢の中、各部隊への配備の指示書なののでしょうか？ それにしてはどうもおかしいです…。一体これは何なのでしょう？

嘉永7年（1854）1月アメリカ艦隊を率いたペリーが江戸湾の小柴（神奈川県横浜市）沖へ再び姿を現しました。前年浦賀に来航した際、日本へ開国を求めたフィルモア大統領の親書への回答を得るためでした。幕府側は1年間の回答猶予を求めていたのですが、約半年後に再び大艦隊でやって来たので大騒ぎとなったのです。前回の来航で、幕府は軍備および江戸湾内の防衛力増強の必要性を痛感しており、湾内には砲

台を据えるため、海を埋め立てて人口の島（台場）造りを急ピッチで進めていました。また、伊豆半島の東岸から房総半島の西岸に至るまで、沿岸の要所に各藩の千～万を越える部隊が警備のために配置されたのです。写真1は、この黒船来航事件について、2隻の詳細な黒船図とともに各藩の配備状況を1枚にまとめて描かれた刷物です。紙面中央には、横浜の応接所まで会談に向かうアメリカ軍の行進の様子も描かれていま

す。国旗を先頭に軍楽隊、武装した兵隊が続いています。この刷物はいったい何のために作られたのでしょうか？

実はこの資料には包紙もあって、表題として「せん おんかため のりやくず 異国船渡来江戸御固之畧圖」と刷られています。そして裏面には「きのえとら これをもとめる 嘉永七甲寅夏 求之 高橋信親」と書き入れられています。ということで、もともとの資料をお持ちの方のご先祖様が江戸に旅した際、土産物として買い求めたということがわかります。はじめ江戸の人々は、初めて目にする黒く大きな船（黒船）と外国人（軍隊）に恐れおののき、大騒ぎになったようです。ところが、しばらくすると慣れてしまったのか、戦の心配はないとわかったためか、逆に興味の対象として見物人が多数詰めかけ、観光地となったようです。埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵で、黒船来航に関わる様々な事柄が描かれた「黒船来航風俗絵巻」には、楽しそうに見物する様子が描かれており、ある場面には「黒船見物無用」と見物禁止の立札が設けられています。かなりの人がやって来たのでこんな立札ができたのでしょう。また、別の場面では黒船やペリーを題材にした刷物が市中で販売され、多くの人たちが買い求めている様子も見られます。まさに、江戸の人たちの好奇心をくすぐるアイテムのひとつとして作られたものなのです。

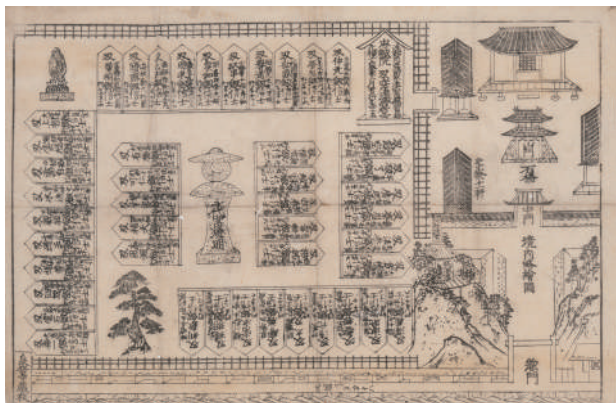


写真2 「泉岳寺境内略絵図」 広島城蔵

次に写真2を見てみましょう。こちらは寺院の境内と墓所が描かれた刷物です。境内は小さく、墓所は大きく描かれているので、墓所の情報が重要であることがわかります。石燈籠を囲むように墓石がずらりと並んでいます。一番大きな墓石の文字をみると「くらのすけよしお 大石内蔵助良雄」とあることから、ここは赤穂浪士の墓所だとわかります。赤穂浪士が関わった「赤穂事件」と呼

ばれる一連の出来事は、江戸時代中期の元禄14年（1701）江戸城内で起こりました。赤穂浅野家藩主浅野長矩が吉良上野介に斬りつけた事が発端で、長矩は切腹、赤穂藩は取つぶしとなりました。一方、吉良に対しては全くお咎めが無かったことから、不服に思う大石内蔵助はじめ旧藩士ら47名が、翌年吉良の邸に討ち入り、仇討ちを果たしました。その後大石たちは幕府から切腹を命じられ、赤穂浅野家の菩提寺である泉岳寺（東京都港区）に葬られたのです。この47名は当時の人々にとって、主君の仇を見事にとった忠義の人＝ヒーローとしてとらえられ、「赤穂四十七士」「赤穂義士」「赤穂浪士」という言葉が生まれました。さらに、浄瑠璃や歌舞伎の題材としても取り上げられ、人気を呼び、広く知られるようになったのです。



写真3 『江戸名所図会』より「泉岳寺」
国立国会図書館デジタルコレクション

そして写真3にあるように江戸後期の地誌『江戸名所図会』には、泉岳寺内の赤穂浪士「四十七士の墓」が名所の一つとして紹介されています。その紹介文には「彼らを追慕して（墓所に）集まる人が少なくない。」と書かれており、人気の高さがうかがえます。改めて写真2を見てみると、左下隅に「泉岳寺蔵板」とあります。ですので、この資料は泉岳寺を訪れた人への案内用として寺で販売されていたものだったのです。

江戸時代も後期になると、広く人々は比較的容易に旅に出かけることができるようになりました。そして、その土地で記念になるものを買って求め、家に持ち帰ったのでしょう。これら土産物を広げながら、旅先での土産話を周りの人にたっぷりと楽しそうに話している姿が目につかぶようですね。（山脇一幸）

カマキリさんっあぶない！車にひかれますよ！！の巻



写真1 「蠍の斧図透鐔」 個人蔵（広島城寄託）

大きな車輪を前に、自慢の鎌（前足）をふりあげて立ち向かう一匹の蠍。「カマキリさんっ！車にひかれますよ！！」と思わず声をかけたくなるシチュエーションです。今回は、この蠍の画題についてご紹介したいと思います。

写真1は「蠍の斧図透鐔」です。鐔は日本刀の刀身と柄の間に取り付けるもので、素材や形、彫りや象嵌などによって意匠が施されています。そこに描かれる図柄も花鳥風月をはじめ中国の故事や日本の古典を題材にしたものなど様々です。

ここに登場する蠍は、中国の故事「蠍の斧」をもとにしたものです。この故事にまつわる話はいくつかの書物に見られ、その一つは『莊子』人間世に著されています。

魯の顔闔（注1）が、極悪非道な衛の太子の守り役になることが決まった時、自分はどうしたらよいかと賢人の蘧伯玉に相談しました。すると、彼は「形のうえで相手に従いながら、うまく導きなさい。ただし、それが自分の力におえないものだとわからず向かって行き、車にひかれる蠍のようになってはいけません。相手の性質をよく知り、慎重に行動しなさい。」と助言しました。

このように、弱い者が身のほどを知らずに強者に向かう例えとして「蠍の斧」という言葉は使われています。

それにしても、刀装具に無謀な蠍の図柄。「自分は弱者ですよ。」と謙遜する意味で用いられるのでしょうか？ むしろ「己の力量をよく知りなさい。この蠍のようになってはいけません

よ。」という、戒めと考えることもできますね。

一方で、じつは「蠍の斧」には勝ち目のない戦いであっても勇敢に立ち向かう「武勇」の意味が込められる場合があり、『韓詩外伝』（写真2）や『淮南子』などの書物には次のように著されています。

齊の莊公（注2）が獵に出た時、一匹の蠍が鎌を挙げ車輪に挑む姿を見て「あれは何という虫か？」と御者に問うたところ、御者は「これは蠍という虫です。進むことのみを知り、退くことを知らず、相手の力を量らず敵を軽んじるのです。」と答えました。すると莊公は、「これが人なら必ず天下にとどろく勇敢な者となるであろう。」と言って馬車を蠍から避けて通るようにさせました。これを聞いた将兵たちは、たとえ力が及ばなくても死力を尽くすべきところを知ったのでした。

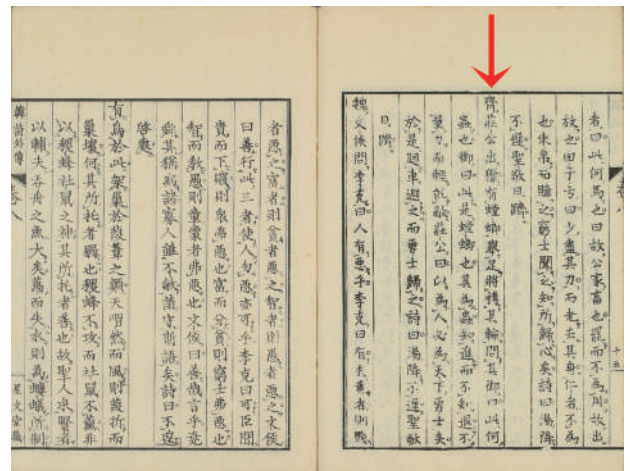


写真2 『韓詩外伝』早稲田大学図書館蔵・写真提供

ここで莊公は、馬車にも臆することなく立ち向かう蠍の姿を天下の勇武に例えています。

このことから、この図柄は勝ち目のない状況であっても勇敢に挑む、武士の心意気を表したものだとも考えることもできるのです。そういう視点で見ると、このカマキリさんが少しだけ、頼もしく見えてくる気がしませんか。

（正連山 恵）

注1 春秋時代の隠士。紀元前5世紀ごろ。

注2 紀元前706年—662年。

コラム - これからの広島城 - 史跡広島城跡二の丸復元建物

史跡広島城跡二の丸復元建物は、昭和20年（1945）の原子爆弾の投下によって焼失した表御門や、平櫓・多聞櫓・太鼓櫓などを広島城築城四百年にあわせて、平成元年から6年（1989～1994）にかけて、伝統的な工法を用いて木造で復元したものです。

二の丸復元建物は、無料で入場することができます。建物の中では、外に向かって矢や鉄砲を撃つための「矢狭間^{ささま}」や「鉄砲狭間^{てっぽうさま}」といった城郭特有の構造が見られるほか、梁^{はり}や柱など木造ならではの雰囲気を楽しむことができます。

そんな二の丸復元建物の魅力を広く知ってもらうため、広島市では様々なイベントを行っています。春と秋には、上田宗箇^{そうこ}流のお茶席を体験できる「二の丸茶会」を開催しています。



二の丸復元建物（外観）



「二の丸茶会」の様子



「演櫓遥々」 雅楽公演の様子



「時空再現！日本の名城 一島充 驚異の城郭ジオラマ展一」展示の様子

また、「演櫓遥々^{えんろはるはる}」と題して、三味線、箏、尺八といった邦楽の演奏や、能、狂言、落語といった芸能などの公演をこれまでに10回以上行っています。

さらに、工芸品などの企画展も行っています。令和4年（2022）9月～10月に開催した「時空再現！日本の名城 一島充 驚異の城郭ジオラマ展一」では、多くの市民や観光客の方々に御来場いただきました。

今後も様々なイベントを行ってまいりますので、ぜひ二の丸復元建物に足を運んでみてください。

（広島市市民局文化スポーツ部文化振興課広島城活性化担当）

しろうや！

広島城

編集・発行
公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

令和5年3月10日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月～2月は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人370円（280円） 中学生以下無料
高校生相当・シニア（65歳以上）180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～12月31日（臨時休館あり）

ホームページ <https://www.rijo-castle.jp>

「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます